

指導者養成カリキュラム表

団体名	特定非営利活動法人 代々木の森クラブ	活動名	○○○○○○○		
養成対象者	これから読書ボランティアを始めようと考えている人、読書ボランティアを行っている人				
項目	時間数	題名	講師名	ねらい	内容
講義	2時間	現代の子どもと読書	○○大学 ○○学部 講師 ○○ ○○氏	子どもの生活や読書の状況を知る	・子どもたちの生活状況を知る ・子どもたちの読書状況を知る
講義	2時間	読書ボランティアのあり方	地域で活動しているボランティア団体 代表○○ ○○氏	読書ボランティアの意義や心構えを明確にする	・実践的ボランティア体験 ・そのバックボーンとしてあるボランティアについての考え方
講義	2時間	子どもの本の選び方 ～子どもに手渡したい絵本・本～	○△大学 ○△学部 講師 ○○ ○○氏	読書活動で最も基本となる本の選び方の技術を深める	・子どもに手渡す本を選ぶための基本的な考え方
講義	2時間	「読み聞かせのしかた」と「お話会のプログラムのつくりかた」	○△大学 ○△学部 講師 ○○ ○○氏	・読み聞かせの基礎の再確認と理論化 ・プログラム作りのポイントを学ぶ	・読み聞かせの基礎の再確認 ・効果的なプログラム作り
実習	3時間	(班別実習) お話会のプログラムを作る	○○市立図書館職員 ○○ ○○氏	これまでの体験を踏まえ、合わせて講義を生かし、読み聞かせに向く本の選び方・子どもへの本の手渡し方を自分たちで考え実践する	班別討議の中で、お話会の企画や運営について学ぶ
実習	3時間	(班別発表) お話会をやってみよう	○○市立図書館職員 ○○ ○○氏	実践によって講座で学んだものを自分のものとする。また、他の発表を聞くことで多様な情報を得、受講生の中での情報の共有を図る	実習で作上げたものを発表することで、作成したプログラムの完成度を確認する。
演習	3時間	「子ども読書推進活動のこれから一子どもへ本を手渡すために」	・○○市立図書館○○ ○○氏 ・読み聞かせボランティアグループ○○ ○○氏 ・○○小学校○○ ○○氏	読書推進を担う人たちの多様な考え方を知り、今後の活動に役立てる	講義・実習・発表を踏まえ、これから自分たちが実現していきたい子ども読書推進の在り方について討議する。
※「読み聞かせ」の指導者・ボランティア養成のカリキュラム例を示してあります。 「ストーリーテリング」「ブックトーク」などでも同様のことが考えられます。					
合計時間数:	17時間				